

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組

「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～広島県「話すこと（やり取り）」の指導の充実に向けて～

○都道府県の課題とその分析

【小学校】

- 新学習指導要領の趣旨の周知及び新教材を活用した授業づくり等についての研修
- ・中核教員等による校内研修の実施
- 小学校教員の基礎的な英語力の向上

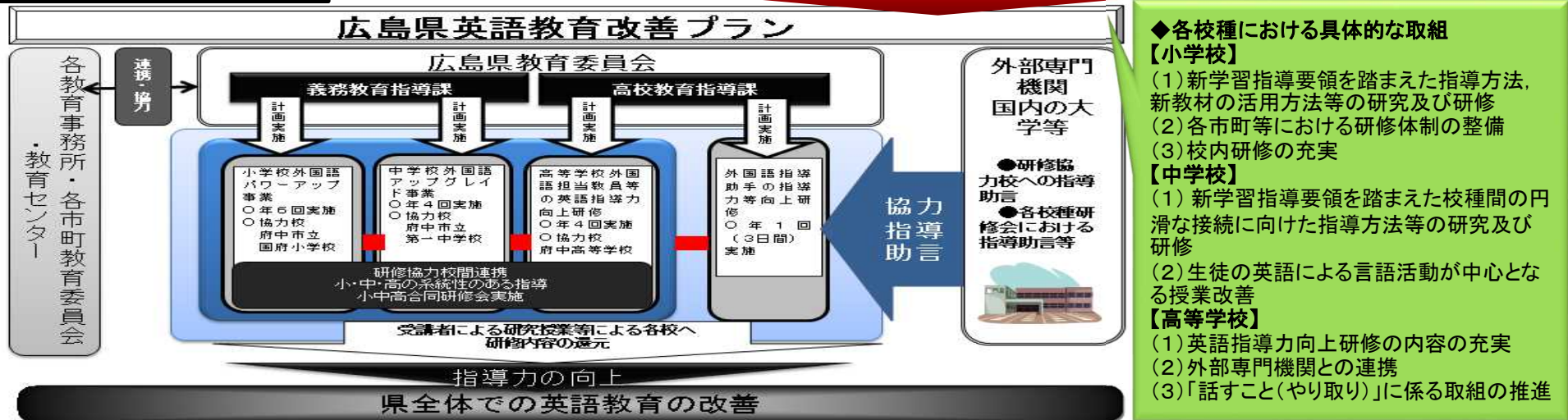
【中学校】

- 生徒の英語力及び英語担当教員の指導力の向上
- ・生徒の英語による言語活動が中心となる授業改善
- 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の整備

【高等学校】

- 英語担当教員の指導力の向上
- ・生徒の英語による言語活動が中心となる授業へ改善
- ・生徒の英語力の向上

○課題解決のための具体的な対策



◆各校種における具体的な取組

【小学校】

- (1) 新学習指導要領を踏まえた指導方法、新教材の活用方法等の研究及び研修
- (2) 各市町等における研修体制の整備
- (3) 校内研修の充実

【中学校】

- (1) 新学習指導要領を踏まえた校種間の円滑な接続に向けた指導方法等の研究及び研修
- (2) 生徒の英語による言語活動が中心となる授業改善

【高等学校】

- (1) 英語指導力向上研修の内容の充実
- (2) 外部専門機関との連携
- (3) 「話すこと（やり取り）」に係る取組の推進

【小学校】

- 成果(◇)及び課題(◆)
- ◇県の研究指定校(研修協力校を含む、以下同様)で新学習指導要領を踏まえた指導方法の理解が深まり、実践されている(県の質問紙調査で指導方法等に関わる全ての項目の数値が上昇)。
- ◇県の研究指定校の研究成果を普及するための研修を全ての市町で年3回実施した。
- ◇上記の研修内容を活用した校内研修が各小学校で行われている(98.5%の小学校が実施)。
- ◆小学校教員の英語力・指導力向上に向けた取組を進める必要がある。
- 成果の普及・周知について
上記研修の実施に加え、研修参加者に対し、新学習指導要領を踏まえた授業づくりの実施状況について、年2回質問紙調査を行い、県内への普及状況を把握する。
- 課題解決のための手立て
研究指定校による研究を深化させるとともに、各市町、各小学校での研修を充実させ、研究成果を県内に普及する。

【中学校】

- 成果(◇)及び課題(◆)
- ◇県内6校を研究指定校(研修協力校を含む、以下同様)に指定し、研究担当者を対象とした研修を4回実施した。
- ◇中学校英語担当教員を対象とし、県内ブロック別において、研究担当者の研究授業を含む研修を計12回実施した。
- ◇求められる英語力を有する生徒の割合の増加。
H29: 42.4%→H30: 43.9%
- ◇生徒の英語による言語活動量の増加。
H29: 78.9%→H30: 80.7%
- ◇英語担当教員の授業における英語使用の増加。
H29: 73.0%→H30: 79.8%
- ◆研究指定校による研究成果及び実践を、県全体へ更に普及していく必要がある。
- 成果の普及・周知について
研究の成果を普及するため、県内全小中学校を対象とした交流会において、実践を発表した。
- 課題解決のための手立て
言語活動が中心となる授業づくりを目指し、年間を見通した研修の充実を図るとともに、研究指定校から実践例を発信させていく。

【高等学校】

- 成果及び課題
- (1) 英語指導力向上研修の内容の充実
受講者の95%以上が満足及び役に立つと肯定的評価
- (2) 研修協力校における外部専門機関との連携
「話すこと（やり取り）」の指導法及び評価法の研究開発
→校内研修年3回実施、県教委主催研修会の実施、実践報告2回実施により、指導法や評価法への理解が深化
- (3) 「話すこと（やり取り）」の取組の推進
研究授業による「話すこと（やり取り）」のモデル提示
→生徒の言語活動量の増加 H29: 41.7%→H30: 48.4%
CE I におけるスピーキングテストの実施状況の改善
H29: 1.21回→H30: 2.6回
⇒以上の取組等により、生徒の英語力が向上
H29: 41.0%→H30: 41.3%
- ▲当初の目標値には達していない。
- 成果の普及・周知について
実践事例配付(年3回)、モデル授業の実施(延べ8回)及び研修協力校による研修会の公開(年3回)
- 課題解決のための手立て
・各学校における校内研修会など小単位での協議の充実

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～府中市立国府小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- 1 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及(校内、小学校外国語教育中核教員及び高学年担任)
- 2 児童の英語力向上

具体の取組の内容

1 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及にむけて

- ①府中市立学校外国語パワーアップ事業研修会(年間3回)及び、府中市小中一貫教育研究大会において公開授業を行った。
- ②校内研修を行い、新学習指導要領や小学校外国語パワーアップ事業の趣旨等を普及した。(年間3回以上)
- ③講師を招聘し、府南学園小学校教員対象の研修を実施することで、小学校外国語の教科化を踏まえた指導方法の理解を促した。(年間1回以上)
- ④「外国語活動に係る実施状況調査」(教師用)を行い、教師の意識の変容を検証した。(年間3回)



第2回府中市小学校外国語パワーアップ事業研修会では「話すこと[やり取り]」を「書くこと」につなぐための授業を提案した。

2 児童の英語力向上にむけて

- ①コミュニケーションの目的、場面、状況を明確した単元末の活動を設定することで、やり取りの量と質の向上を図った。
- ②5・6年生に対しては、Small Talkの中で既習表現の活用を促した。動作や表情を手掛かりにすることで、相手の意図をよりよく理解したり、動作化を加えて話すことで、自分の考えや気持ちをより分かりやすく伝えたりすることを実感できるように仕組んだ。また、やり取りがある程度継続するように、繰り返し、応答、質問等が自然にできるようにした。
- ③毎時間、授業の最後に「振り返り」を書く時間を設定した。また、児童の「振り返り」に対して教師が肯定的なコメントを加えることで、英語によるコミュニケーションに対する意欲向上を目指した。
- ④校内の掲示物を定期的に整備・改善し、児童が日常的に外国語や外国の文化に触れたり興味をもったりすることができるような環境をつくった。
- ⑤「外国語活動に係る実施状況調査」(児童用)を行い、児童の意識の変容を検証した。(年間3回)



教室には既習表現を掲示した。



外国語に関する掲示コーナーでは国内外の文化を紹介した。

成果①

1 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及について

○「外国語活動に係る実施状況調査」(教師用)のすべての項目で肯定的回答の割合が高まった。(5月～9月比較)

2 児童の英語力向上について

○「外国語活動に係る実施状況調査」(児童用)において、①関心・意欲に関わる項目、②思考・判断・表現に関わる項目、③知識・理解に関わる項目について肯定的回答の割合が高まった。

「外国語活動に係る実施状況調査」(児童用)における肯定的回答の割合

	5月平均	9月平均
①もっと英語を学びたいと思います。	94.2%	95.8%
②英語でやり取りや発表をする時には、自分の考えや気持ちなどを伝えています。	66.1%	78.3%
③外国語活動の授業では、日本と外国のくらしや習慣、文化などの違いを知ることができます。	83.4%	91.6%

成果②

1 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及について

- 授業公開、および演習を主とした研修を行ったことで、新学習指導要領の趣旨について具体的なイメージを共有することができた。
- 以前よりも授業や授業準備に対して学級担任が積極的に関わるようになり、より効果的なチーム・ティーチングが可能になった。

2 児童の英語力向上について

- 教室に既習表現(やり取りが継続する表現等)を掲示したことで、児童がSmall Talkの中でそれらを進んで活用しながら会話するようになった。
- 毎時間「振り返り」を書くことで、児童が主体的に自分の課題に気付いたり、課題解決のためのアイデアを考えたりすることができるようになった。
- 校内の掲示物を定期的に整備・改善することで、児童の会話の中に外国の言葉や文化に対する話題が以前よりも多く見られるようになった。

今後の課題・方向性

- ①2020年度からの新学習指導要領の全面実施に備えて、府中市立学校外国語パワーアップ事業を通して、研究を推進するとともに、校内外に研究成果を普及する。
- ②コミュニケーションの「目的」「場面」「状況」を明確にした授業づくりを行うことで、やり取りの質的な向上を目指す。特に、「英語でやり取りや発表をする時には、自分の考えや気持ちなどを伝えています」の項目に対する肯定的回答の割合を増やす。
- ③小中連携をより充実させる。特に、「CAN-DOリスト」について教職員間で共通理解を図り、それにもとづいて指導計画を作成できるようにする。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～府中市立第一中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

1. 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及
2. 外国語科教員の指導力向上及び生徒の英語力向上

具体の取組の内容

1. 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及
 - ①コミュニケーションの目的、場面、状況を設定し、やり取りの量と質の向上を図る。
 - ②「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を踏まえた単元目標を設定し、パフォーマンステストを年間2回以上実施する。
2. 外国語科教員の指導力向上及び生徒の英語力向上
 - ①生徒の授業における英語による言語活動時間の割合を65%以上にする。
 - ②外国語科教員の授業における英語使用状況を50%以上にする。
 - ③求められる英語力を有する生徒の割合を35%以上にする。
 - ④英語部会を行い、中学校外国語アップグレード事業の趣旨等を普及する。
 - ⑤府南学園小学校外国語教育推進リーダー及び高学年担任研修のカスケード研修を行い、小学校外国語の教科化を踏まえた指導方法の理解を図る。
3. 授業公開・研究会等
 - ①中学校外国語アップグレード事業全体研修(9月27日)
 - ②中学校外国語アップグレード事業全体研修(10月15日)

言語活動の充実～コミュニケーションの目的、場面、状況の設定(例)

本時の目標：オーストラリアの中学生と、お互いの憧れの人についてより知り合うために、詳しく質問したり答えたりして対話を続けよう。

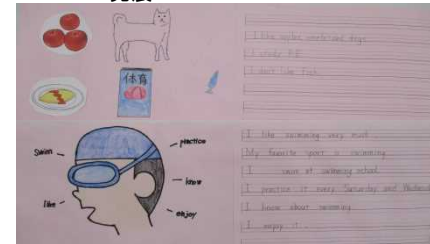
- ⇒場面① Web通信でオーストラリアの生徒に憧れの人を紹介しよう
- ⇒場面② Web通信でオーストラリアの生徒に学校(先生)を紹介しよう

会話を継続・発展するためのポイントを活用する。

- ①対話の開始
- ②繰り返し
- ③一言感想
- ④確かめ
- ⑤さらに質問
- ⑥対話の終了



Small Talk～学習した足跡を残し自己紹介文に発展



成果①

1. 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及
 - ①毎単元、具体的な目的、場面、状況の設定を児童に意識させることで、やり取りの量を向上させることができた。12月実施の生徒のアンケート結果で、「簡単な英語を使って質問したり答えたりすることができるようになった」という項目に関して、肯定的評価が84%であり、4月から46%増えた。
 - ②新学習指導要領を踏まえた「CAN-DO リスト」を作成し、学習到達目標を意識した単元計画を作り、研究授業を年3回行った。また、平均2.2回のパフォーマンステストを実施しており、本年度の目標値に達した。
2. 外国語科教員の指導力向上及び生徒の英語力向上
 - ②外国語科教員の授業における英語使用状況は50%で、目標値を達成することができた。

成果②

2. 外国語科教員の指導力向上及び生徒の英語力向上
 - ④英語部会を5回行い、中学校外国語アップグレード事業の趣旨を共有し、指導方法の改善に努めた。教師のアンケート結果から、「コミュニケーションの目的・場面・状況を設定した言語活動を考えた」「文法を気付かせるように導入の工夫を行った」「話すこと(やり取り)を意識して授業に取り入れた」などの意見が出ており、英語科教員の指導方法の変容が見られた。
 - ⑤教員アンケートの結果から、「本研修は役に立つと思いましたが」「本研修で新しい知識や技能を習得できましたか」という項目に、全受講者が肯定的な評価をした。また、「本研修で学んだことを活用しましたか」という項目には、「学ばせたい英語表現を導入する際に、デモンストレーションなどで分からせるなど、提示の仕方を工夫している」「絵本を英語の語句や表現を導入・定着させるために活用した」などの意見が出ており、小学校教員の指導方法の変容が見られた。

今後の課題・方向性

1. 新学習指導要領を踏まえた指導方法等の研究及び普及
 - ①やり取りの質の向上を図る。
生徒のアンケート結果で、「英語でやりとりや発表をする時には、自分の考えや気持ちを伝えるようになった。」という項目に関して、肯定的な評価が45%しかなかった。また、「即興で会話を続ける上で困っている点」として、「相手に質問したいが英語でどう表現すればよいかわからない」と答えた生徒は78%と多かった。
2. 外国語科教員の指導力向上及び生徒の英語力向上
 - ①生徒の授業における英語による言語活動時間の割合は57%で、昨年度の数値より7%増えたが目標値には達していない。
 - ③求められる英語力を有する生徒の割合は25%で昨年度の数値より8%増えたが目標値には達していない。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～広島県立府中高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

【現状の課題】「話すこと(やり取り)」を継続する力が十分ではない

【課題解決のための手立て】やり取りを継続する方法の指導の工夫, 及び生徒による相互評価の活用

具体の取組の内容

- 1 「話すこと(やり取り)」に係る学習到達目標の設定, 詳細シラバス(単元評価計画と言語活動方針を兼ねたもの)の作成及び担当者間と生徒との共有
 - CAN-DOリスト, 詳細シラバスの設定, 及び生徒との共有
CAN-DOリストに基づき, 考査毎に詳細シラバスを作成し, 単元の目標や活動を生徒に明確に提示
 - 「話すこと(やり取り)」のルーブリックを作成 ①言語活動の目的や単元に基づいたもの ②CEFRに基づいたもの
- 2 「話すこと(やり取り)」に係る授業構成・指導の工夫
 - 「言語活動」作成シートを作成し, 英語で話す必然性のある場面と生徒に提示するモデルを設定
 - 「話すこと(やり取り)」の表現集を作成し, 継続的に「話すこと(やり取り)」の練習を実施
 - 「話すこと(やり取り)」のルーブリックを用いた生徒による相互評価を実施
- 3 外国語担当教員の指導力等の向上に向けた取組
 - 外部専門機関と連携した教員研修, 及び校内における相互授業観察の実施
研究授業による指導法の共有・改善, 効果的な指導法と評価方法について大学教授による講演
 - 校内研修の他校, 異校種への公開による研究成果等の普及



コミュニケーション英語Ⅰの
研究授業の様子

外部機関と連携した
教員研修の様子

成果①

◎目標, 評価基準, 使用教材等の共有, 及び教員研修及び相互授業観察等による外国語担当教員の指導力の向上

- 全担当教員の, 生徒の英語による言語活動時間の割合(コミュニケーション英語Ⅰ)が前年度より改善 H29:50%以上→H30:75%以上
- 教員の英語使用状況(コミュニケーション英語Ⅰ)が前年度より改善 H29:50%以上→H30:75%以上
- 外部専門機関と連携した教員研修を年間3回実施⇒ルーブリック作成の研修により, 具体的に育成すべき生徒像を把握, 教員間での共有化した上で授業実施が可能に
- 校内における相互授業観察を全教員が年間2回実施⇒他者の取組により自身の取組の相対化

成果②

◎コミュニケーション英語Ⅰにおける表現集の継続的な活用, 及び相互評価の効果的な活用により, 「話すこと(やり取り)」を継続する力の向上

- 「話すこと(やり取り)」の表現集を活用した, 継続的な「話すこと(やり取り)」の帯活動の実施
→9月～ほぼ毎時間実施: 使える表現や継続するための方略の蓄積
- ルーブリックを用いた生徒による相互評価
→生徒に目指す到達点を明確な判断基準として提示したことにより, 自身の改善点が明らかになり, 生徒のパフォーマンスの質が向上
- 2分間継続して「話すこと(やり取り)」をした生徒の割合が増加
6月: 全体の約60%の生徒が達成
12月: 全体の約80%の生徒が達成

今後の課題・方向性

- 1 生徒の英語による言語活動時間の割合と教員の英語使用状況の割合の更なる向上
 - 「話すこと(やり取り)」について, 教科会や研修を実施する。
 - 研究授業を通して指導方法やフィードバックについて協議, 改善する。
- 2 2分間継続して「話すこと(やり取り)」をした生徒の割合を100%に
 - 即興での言語活動を授業で増やす。
 - 教科書等を使って, 様々なテーマについての語彙力や表現力を拡充する。